

水稻情報

(第1号)

あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

- ・コシヒカリの田植えは5月15日を中心に、育苗日数は19日間以内を目安に計画的に播種しましょう。
- ・温度管理の徹底により健苗を育成し、初期生育の確保につなげましょう。

○育苗計画の目安

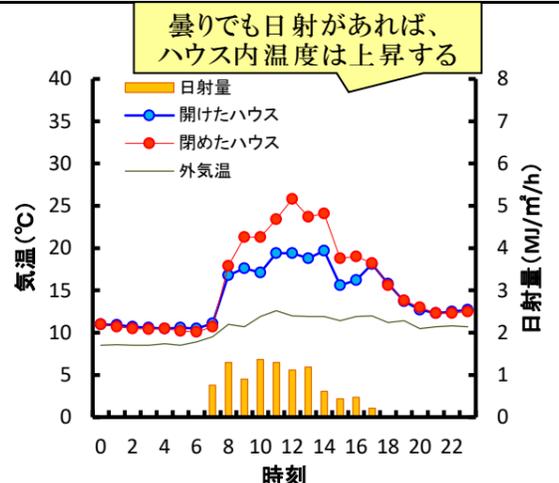
種子消毒	浸種開始	播種	田植え	育苗日数	出穂期
4/6	4/7	4/19	5/10	21日	8/1頃
4/15	4/16	4/26	5/15	19日	8/4頃
4/24	4/25	5/3	5/20	17日	8/7頃

19日間以内の
育苗日数で
健苗育成！



○育苗のスケジュールと管理のポイント

月/日	作業	温度管理	管理のポイント																					
	育苗準備		<ul style="list-style-type: none"> ・苗箱はイチバンで消毒し、しっかりと乾かす ・ハウス内を均平化し、温度計を設置する 																					
4/15	比重選 種子消毒	水温 10~15℃	<p>①比重選により、充実した種籾を準備する ・発芽障害を防ぐため選別後硫酸を水で洗い流す</p> <p>②種子消毒の徹底 【薬液の作り方】薬液は1回ごとに新しく作り浸漬する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>比重</th> <th>水10ℓに溶かす硫酸の量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち</td> <td>1.13</td> <td>2.5kg</td> </tr> <tr> <td>もち</td> <td>1.08</td> <td>1.5kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>【薬液の作り方】薬液は1回ごとに新しく作り浸漬する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>浸漬時間</th> <th>種籾量</th> <th>水量</th> <th>薬剤量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モミガードC水和剤</td> <td>200倍</td> <td>24時間</td> <td>10kg</td> <td>20ℓ</td> <td>100g</td> </tr> </tbody> </table> <p>・廃液は適切に処理し、用水、河川に流出させない</p> <p>【硫酸による比重液の作り方】</p> <p>令和6年産用種子は休眠が深い傾向</p>	種類	比重	水10ℓに溶かす硫酸の量	うるち	1.13	2.5kg	もち	1.08	1.5kg	薬剤名	希釈倍率	浸漬時間	種籾量	水量	薬剤量	モミガードC水和剤	200倍	24時間	10kg	20ℓ	100g
種類	比重	水10ℓに溶かす硫酸の量																						
うるち	1.13	2.5kg																						
もち	1.08	1.5kg																						
薬剤名	希釈倍率	浸漬時間	種籾量	水量	薬剤量																			
モミガードC水和剤	200倍	24時間	10kg	20ℓ	100g																			
4/16	浸種	水温 10~15℃	<p>③浸種はあわてず播種の10日前頃から始める ・水温×日数=積算温度120℃を確保する ・発芽を揃えるため、浸種初日は水温12~13℃とする ・水は2日に1回交換し、浸種期間の後半は籾を確認し芽が動いていたら終了する</p> <p>浸種期間の目安 10℃→12日間 15℃→8日間</p>																					
4/25	催芽	育苗器内温度 28~30℃ 20~24時間	<p>④芽の長さをこまめにチェック ・催芽を揃えるため1日に2~3回、袋を反転する ・催芽後の籾の脱水は十分に行い、籾が手に付かない程度まで陰干しする</p> <p>目安:ハト胸~2mmまで</p>																					
4/26	播種		<p>⑤播種量は催芽籾で箱当たり150g(乾籾120g)のうす播きとする</p> <p>乾籾120g播き 培土充填のイメージ(加工床土)</p> <p>軽量培土は 床土:15mm 覆土:8mmとする</p> <p>【苗立枯病対策】 (播種時のかん水を兼ねる) ナエファインフロアブル1000倍液 を1箱当り500mℓ灌注</p>																					
	出芽	育苗器内温度 30℃ 2~3日	<p>・培土と覆土を合わせて25mm程度とし、充分にかん水(加工床土1ℓ、軽量培土0.8ℓ)が行えるようにする</p> <p>⑥育苗器の温度をこまめに確認(サーモスタットの使用前点検は必ず行う)</p>																					
4/29	緑化	ハウス内温度 25℃を超えないよう、換気を徹底	<p>⑦芽の長さが1cmに揃ったらハウスへ搬出 ・搬出後は、覆土を落ち着かせ、緑化期間中に水不足にならない程度にかん水する ・搬出直後から、ハウス内の温度が25℃を超えないよう積極的に換気する ・第1葉が展開したら速やかに被覆資材を外す</p>																					
5/1	硬化	昼25℃以下 夜10℃以上	<p>⑧田植えの10日前からは、昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす ・かん水は朝にたっぷりと行い、日中は床土の乾きに応じて行う ・かん水過多は根張りを悪くするので注意する</p>																					
5/15	田植え		⑨できる限り穏やかな気象条件で田植えを行う																					



GAPチェックシート・栽培履歴の提出に備えて「栽培こよみ」に作業月日を記入しましょう

春の土づくり



1 土壌改良資材の施用

- ケイ酸の施用により高温条件下でも登熟が向上し、精玄米重や整粒歩合が高くなります(図1)
- 気象変動に備えるため土づくり資材を施用しましょう

【水稲に対するケイ酸の効果】

- 光合成効率が向上し、収量や品質が向上
- 茎葉や根が強くなり、倒伏が軽減
- いもち病等に対する抵抗力が向上
- 割粃が減りカメムシによる斑点米の発生が軽減

【ケイ酸質資材等の標準施用量】(kg/10a)

資材名	施用量
グリーンウェイブDX	90~120
あおばフミンエース	100
スーパーケイサン+	90
シリカロマン	100
有機加里入りシリカロマン	100
鶏果良好	80~100

※各種、フレコンもあります。活用ください

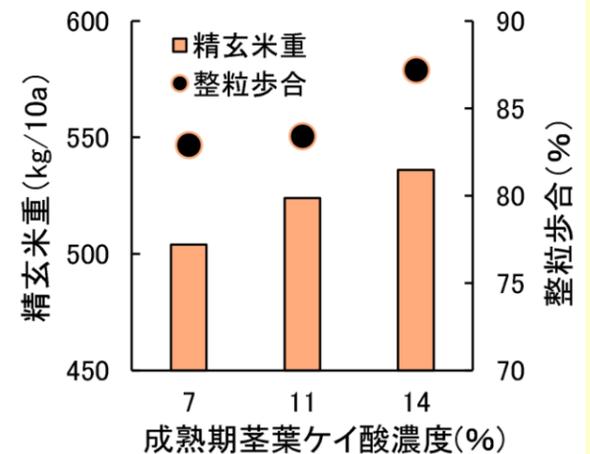


図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

2 有機物の施用

堆肥や発酵鶏糞などの有機物を積極的に施用し、地力の向上に努めましょう

【堆肥施用量の目安】春施用：10a当たり

牛糞堆肥	1トン
豚糞堆肥	0.5~1トン
発酵鶏糞	75kg(還元田:150kg)

注：コシヒカリは基肥を窒素成分で1kg減肥

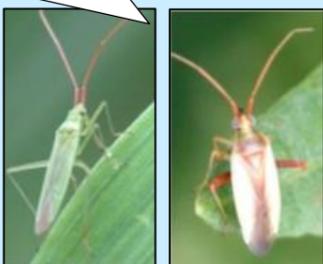
3 深耕による作土層の拡大

作土が浅いと根が十分伸長できず気温や水分変化の影響を受けやすくなります「現状+3cm」、15cm以上の作土を確保し、収量・品質を向上させましょう

カメムシ対策 第1回

- ・カメムシが好むイネ科雑草を春のうちになくすることで、カメムシの密度を抑えることができます
- ・除草剤を使用する場合は、4月中下旬頃に畦畔等にザクサ液剤、バスタ液剤等の茎葉処理除草剤を散布しましょう(遅くとも田植えの始まる前までに行いましょう)
- ・除草剤散布をしない場合は、幼虫の餌となるイネ科雑草が穂をつけないよう、こまめに草刈りを行いましょう

僕たちは、春に卵から孵って、イネ科雑草で繁殖するよ



斑点米カメムシ類

【除草方法と主なカメムシ類密度低減効果】

除草方法	密度低減効果		期待される効果等
	幼虫	成虫	
除草剤散布 (ザクサ バスタ等)	○	○	・カメムシ類の密度低減効果が高い ・幼虫の餌となる雑草がなくなり、生存できなくなる ・寄主植物がないため、成虫の飛来や産卵がみられなくなる
草刈り (出穂 しないように)	△	○	・幼虫はイネ科雑草の葉だけでも発育できるが、穂がないため、幼虫の発育遅延や羽化率が低下する ・穂がないため、成虫の飛来や産卵が抑えられる

(注) ○:効果が高い、△:一定の効果がある

【水稲育苗ハウスで野菜等の栽培を行われる方へ】

水稲育苗ハウスで野菜等の栽培を行う場合、苗箱施薬剤は育苗ハウスから搬出した後に散布しましょう

徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策 春の農作業安全運動実施中！(3/1~5/31)

水稲情報 第2号の発行日は、4月24日頃を予定しています